

林業福島

No. **623**

題字 公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会
会長 齋藤卓夫



ふくしまから
はじめよう。

Future From Fukushima.



7

2016

監 修 ■ 福島県農林水産部
表紙の写真 ■ 新緑の仲間たち



次代へ森を活かして地域を創る

福島県森林組合連合会
代表理事会長 秋 元 公 夫

第二八回全国森林組合大会において、新たな系統運動方針「J Forest 森林・林業・山村未来創造運動」が決議されました。この運動方針の意義は、森林所有者、森林組合、都道府県森林組合連合会、全国森林組合連合会が一つの方向性に向かって団結することにより、大きな力を生み出すことにあります。

平成二一年に制定された私たちの森林組合綱領は、地域の森林管理主体として、地域の森林を協同の力で育て守り続け、森林環境保全と林業発展を通じて、地球温暖化防止へ貢献するとともに、水源の保全、国土の安全、健全な森林環境と良質の木材を国民へ提供しながら、健康で安心、豊かな住生活を支えていくことを使命としています。

しかしながら、福島県では、大震災から五年が経過したにもかかわらず、原子力災害は未だ予断を許さない状況が続いており、今なお多くの組合員が避難生活を余儀なくされ、大変なご苦労、そして心労が続いていることと観察し申し上げます。

その中で、次代への責任として平成二八年度は、当連合会をはじめ、森林組合系統の存在意義を問われる年となることから、関係事業の円滑な実施促進に向け、機械化や労務、運転資金など森林組合の経営基盤充実に向けた支援を強化するとともに、事業に伴う木材集出荷体制や放射性物質の検査体制などの整備を検討してまいります。

さらに、立木賠償請求において、森林組合及び森林所有者の過度な負担とならないよう、かつ円滑な実施が担保されるよう、引き続き東京電力ホールディングス株式会社及び関係機関と調整を図ってまいります。

また、復興に向けた様々な御支援の申し出をいただいておりますので、こうした御支援を有効に活用させていただきながら、新たな系統運動方針の意義を念頭に、次代へ森を活かして地域のコミュニティを創るためにも、役員一丸となって経営改善と積極的な事業運営に努めてまいりますので、関係各位の御支援を引き続きお願い申し上げます。

《も く じ》

とびら

次代へ森を活かして地域を創る

福島県森林組合連合会代表理事会長

秋 元 公 夫… 1

第69回全国植樹祭コーナー…………… 2

第67回全国植樹祭ながの2016…………… 3

第45回全国林業後継者大会…………… 4

第37回緑の少年団 活動実績発表大会… 5

優良森林土木工事等を表彰…………… 6

フォレスト助成認定事業活動発表会… 7

普及指導員通信…………… 8

森林管理署メモ…………… 9

公社だより…………… 10

「自然に親しむ」…………… 11

木材市況・ふくしま東西南北…………… 12

はなしのひろば・お知らせコーナー… 13

第69回全国植樹祭 大会テーマ、シンボルマーク等が決定

福島県森林保全課全国植樹祭推進室

6月15日開催の第69回全国植樹祭福島県実行委員会第3回総会において、大会テーマ、シンボルマーク、天皇皇后両陛下のお手植え・お手播き樹種が承認されました。

○大会テーマ

「育てよう 希望の森を いのちの森を」

〔長野県飯山市 稲田 昭子 さん〕

○シンボルマーク



〔兵庫県宍粟市 小柴 雅樹 さん〕

○お手植え・お手播き樹種

【お手植え樹種】

(天皇陛下)



クロマツ

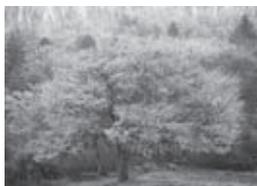
(皇后陛下)



アカマツ



ケヤキ



ヤマザクラ



スダジイ



ヤブツバキ

【お手播き樹種】

(天皇陛下)



津島マツ⁽¹⁾

(皇后陛下)



ベニシダレ



飯豊スギ⁽²⁾



マルバシャリンバイ

(1：前回大会お手植え樹種 (2：前回大会お手播き樹種)

※ 震災からの復興・再生を象徴するため、前回大会と関連するお手播き樹種とした。

大会テーマ、シンボルマークを活用し、より一層第69回全国植樹祭の開催をPRするとともに、大会の成功に向け、引き続き会場整備や式典行事などの準備に取り組みます。

第六七回 全国植樹祭

ながの2016

公益社団法人 福島県森林・林業・緑化協会

第六七回全国植樹祭が六月五日（日）、長野県で開催されました。

今年の全国植樹祭は、「ひとゆめ みどり／信濃から 未来へつなぐ 森づくり」をテーマに、豊かな自然、美しい景観を有し、様々な恵みを与えてくれる長野県の森林を、県民が協働して守り育て、有効活用し、未来へ引き継いでいく姿を全国に発信する機会として開催されました。

式典は、長野市オリンピック記念アリーナ・エムウェーブで行われ、式典冒頭では、東日本大震災復興支援として、東日本大震災の津波で流出した海岸防災林の早期再生を支援するため、



式典会場の様子



植樹会場の様子

東北三県、岩手県、宮城県及び福島県の代表者（福島県は小野和彦農林水産部長）に苗木目録が贈呈されました。

午前中の式典では、天皇后両陛下によるお手植え、お手蒔きがあり、長野県にゆかりのある樹種をそれぞれ、天皇后陛下は、ヒノキ、ウラジロモミジ、コウヤマキを、皇后陛下は、シナノキ、タカトオコヒガンザクラ、

ミズメをお手植えされました。お手蒔きでは、天皇后陛下はカラマツとクリを、皇后陛下は、シラカバとナナカマドをお手蒔きされました。



地元の出演者の皆さん

式典の最後には、被災地へのエノキリレーということで、前述した苗木目録の贈呈に加えて、東日本大震災復興支援として、皇居内のエノキから採取した種から育てた苗木を、平成二九年の第六八回全国植樹祭の開催県である富山県にリレーするセレモニーが行われました。リレーされたエノキの苗木は、富山県で一年間育成された後、平成三〇年の第六九回全国植樹祭を開催する本県の地に植樹される予定です。

植樹行事以外では、信州を代表する四つの祭りの披露や表彰式、市川海老蔵による勸進帳「延年の舞」の記念式典アトラクション等が行われました。

また当日は式典会場の他にも、上田市の自然運動公園、伊那市の鳩吹

公園、松本市のアルプス公園、長野市の茶臼山自然植物園といった四つの会場を式典会場と実況中継映像で結びながら、植樹会場として多くの参加者が植樹活動を実施しました。当協会では、平成三〇年の第六九回全国植樹祭福島県開催に向けて、震災による津波及び原発事故からの復旧・復興を全国にアピールできるよう、六月からスタートした「森林とのきずなづくり植樹リレー」などの活動を通して、これまで以上に森林づくりに対する機運醸成を図っていくとともに、緑化活動の普及啓発、推進に努めてまいります。



来賓の前で植樹する緑の少年団たち

第四五回全国林業後継者大会が 長野県で開催される

福島県林研グループ連絡協議会

平成二八年六月四日(土)、第四五回全国林業後継者大会が、第六七回全国植樹祭の関連行事として長野県飯山市において、「人・技・気持ちつなげよう 未来へ」を大会テーマに、約五〇〇名の参加者のもと開催されました。

この大会は、全国の森林・林業関係者が一堂に会し、森林を育む担い手として果たす役割について意見を交わし、健全な森林を持続的に育成することにより、豊かな社会を築くことを全国に発信するために開催されたもので、昭和四五年福島県磐梯青年の家を会場に第一回が開催され、以後全国植樹祭の前日に開催されるのが慣例となっています。

大会本会は、飯山駅に隣接する「飯山市文化交流館なちゅら」を会場に記念式典が行われた後、『育て活き活き林業人』と題したトークセッションが行われ、最後に「林業後継者としての自信と誇りを持ち、森林を育て利用することを通じて、豊かな地域社会を築くため積極的に

取り込むことを誓う」大会宣言が盛大な拍手で採択されました。

トークセッションは、『育て活き活き林業人』を基本コンセプトとし、総合進行者は、技術士(森林部門)の大槻幸一郎氏。

活動発表は、長野県林業大学第三七期生の代表(児玉月之助さん、野田愛風さん、野本浩幸さん)が、将来の林業後継者として学んでいること、将来の目標・心構え、林業への夢・希望、今後の林業について提言。

これからの林業の理想像「新4Kll4S」を目指す

ケガをせず Safety
効率的に Smooth
カン「ヤ」 Smart
稼ぐ Salary

「こうなってほしい。」ではなく、「私たちがこうします!!」と次世代の林業が明るくなる、力強い発表でした。

続いての発表は、上伊那林業士会会長の川島潤一さん、県産材販路開拓協議会事務局長の丸山淳治さん、ソマチチ代表の原薫さんは、林業会社の代表取締役で林業女子会でも中心的人材として活躍されています。

先進事例報告で、北信州森林組合業務課長の堀澤雅彦さんは、森林GISを活用した長期目線の森林管理に取組について紹介されました。

オーストリア大使館商務部の上席商務官ルイジ・フィノキアロ氏は、木質バイオマス産業・森林技術・機械などを日本に紹介する活動を行っている、林業技術と交流等の覚書書を長野県と取り交したオーストリアにおける、森林教育や技術者の育成方法など、若い林業関係者が活き活きと活躍している林業の現状を紹介されました。

オーストリア森林官 3つのK

K 給料が高い
K 格好が良い
K 健康に良い

本大会終了後開催された、交歓の夕べは、小学生五名の鬼島太鼓の力強い音の響きで、会場内は、勇壮な雰囲気にながら、全国の森

林・林業関係者との貴重な意見交換の場となりました。

最後は第四六回の開催県である富山県の林業研究グループ連絡協議会へとバトンが引き継がれました。

その翌年には、福島県での開催。いよいよです。



長野県林業大学在校生発表風景



来賓のあいさつ

平成28年度 第37回 福島県緑の少年団活動実績発表大会

公益社団法人 福島県森林・林業・緑化協会

日時 平成28年5月25日(水)
場所 ビッグパレットふくしま 4階 プレゼンテーションルーム
主催 福島県緑の少年団育成協議会
公益社団法人 福島県森林・林業・緑化協会
後援 福島県 福島県教育委員会 関東森林管理局

5月25日(水)、郡山市「ビッグパレットふくしま」において、「平成28年度 第37回福島県緑の少年団活動実績発表大会」を開催しました。

本大会は、新緑が映えるこの時期（5月）に毎年開催しています。

今回、7団の緑の少年団が参加し、発表では6団の各少年団の代表（団長、副団長等）が昨年度1年間取り組んできた学習活動、奉仕活動、レクリエーション活動について発表しました。

審査結果（参加団含む）は、次のとおりです。

福島県知事賞	福島県緑の少年団育成協議会長賞
田村市立緑小学校みどりの少年団／田村市立緑小学校	猪苗代町立緑小学校緑の少年団／猪苗代町立緑小学校
福島県教育委員会教育長賞	奨励賞
会津若松市立川南小学校「ホタルの里」緑の少年団／ 会津若松市立川南小学校	郡山市立穂積小学校緑の少年団／郡山市立穂積小学校 会津若松市立謹教小学校緑の少年団／会津若松市立 謹教小学校
関東森林管理局長賞	その他参加団（発表なし）
会津若松市立大戸小学校緑の少年団／ 会津若松市立大戸小学校	大甕緑の少年団／南相馬市立大甕小学校

審査講評のなかで、審査委員長の県教育庁社会教育課主幹の平久井淳氏は、「どの少年団も各地域の特徴を活かした活動をしている。」「今日の機会をとおして、自然とふれ合えることがどれほど素晴らしいことかもう一度思い起こして、これからの少年団活動はもちろんのこと、皆さん一人一人目標を持って一生懸命頑張ってもらいたい。」と話されました。

県知事賞を受賞した田村市立緑小学校みどりの少年団の石井遥香団長（6年）、伊藤綾香副団長（6年）は「（県知事賞に選ばれ）ビックリした。みんなに伝わるように発表ができてよかった。」とコメントしました。

表彰式は、7月26日(火)開催予定の第42回福島県緑の少年団大会（郡山ユラックス熱海：多目的ホール）の席上にて行う予定です。



田村市立緑小学校みどりの少年団



会津若松市立川南小学校「ホタルの里」緑の少年団

今回、県知事賞の田村市立緑小学校みどりの少年団を全国大会に推薦した結果、全国緑の少年団連盟会長賞（みどりの奨励賞）に選ばれました。同賞の表彰式は、7月30日(土)から開催される「2016緑の少年団交流集会in北海道」の席上にて行われる予定です。



通常総会会場

優良森林土木工事及び 優秀工事監督者を表彰

公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会

平成二八年六月十日（金）、当協会の通常総会の席上、優良森林土木工事及び優秀工事監督者の表彰式を行いました。

この表彰は、工事施工者の技術の向上と工事の完全施行の確保を図ることに加え、森林土木技術者を育成するとともに、表彰を通じて、日常生活では県民の目に触れる機会が少ない山間地での工事を広く公表すること、県民への森林が有する多面的機能の認識にも繋がることから、毎年度実施しています。

本年度は、平成二七年度の施工に係る森林土木工事で、地方林業協会等から推薦があった工事を対象に、県及び当協会で構成する表彰審査会での審査を経て、受賞者を決定しました（受賞者については、当協会ホームページをご覧ください）。
受賞者から、今後の抱負などを伺いました。

○常磐開発

代表取締役社長 佐川 藤介様
受賞したお気持ち

現場担当が一生懸命やってくれた結果です。

・今後の抱負

今回の受賞を糧にして、また来年も優良工事を受賞できるように担当者の技術向上に努めたい。

○(株)高橋建設

専務取締役 遠藤 利章様

・受賞したお気持ち

昨年、今年と二年続けて受賞できてびっくりしている。

・今後の抱負

二年続けて受賞できた分、三年連続で受賞できるよう、一層頑張らなくてはと思いました。

○大正工業(株)

川原田孝一様

・受賞したお気持ち

素直にうれしいの一言です。

・今後の抱負

今まで治山事業の現場をやってきたので、今回の受賞を励みにさらにいい成果品をつくっていきたい。

当協会では、県土の保全等県民の安全・安心を確保するため日々研鑽

している事業者等を顕彰するとともに、多面的機能を有する森林に対し県民から深い理解が得られるよう、これからも表彰事業を続けていくこととしています。



川原田孝一様への授与



遠藤利章様への授与



佐川藤介様への授与

フォレスト助成認定事業 活動発表会

一般財団法人 福島県林業会館

当法人の公益事業として毎年継続

しているフォレスト助成金事業制度ですが、昨年度は三〇件、四九〇万円（協賛も含む）の助成を行い、平成十一年六月に創設されて以来累計で三三〇件、金額で五、二二〇万円九千円となりました。一団体に二〇万円限度とし単年度五〇〇万円前後の少額の助成金制度ですが、地道に林業関係事業に取組んでいる団体に助成しており、森林林業関係には何

がしかの貢献をしているのではと思っております。

この助成金制度は、公益事業継続の立場から公益性を維持するため、認定事業の審査会には外部から四名の審査員を加えて、申込団体、事業内容など厳正に審査をして認定しています。森林林業事業のため団体事業が複数年度にわたる課題はありますが、今後も継続して取組んでいく方針であります。

この発表会は、平成二四年度から総会開催日に、前年度認定事業の中から二団体の事業を選び実施内容を

発表していただいております。

今年度発表会には、高子沼を楽しむ会（伊達市保原町）とNPO法人みんなのあそび塾によきによき（郡山市安積町）にお願いしました。

高子沼を楽しむ会は、伊達家発祥の地である高子岡城跡周囲の巨岩が露出する名勝地「高子二十境」の散策路の整備と、環境美化のため雑木伐採、笹藪倒木の除去作業をして、先人が詠んだ漢詩の碑と眺望を楽し



高子沼を楽しむ会

んでもらう散策やウォーキングイベント等で、高子沼周囲の地域づくりを年次計画で取組んでいる団体です。江戸時代の漢詩と挿絵が継承されている珍しい名勝地のPRにも努めたいと八年前から活動して

ルドで、学生達とウッドデッキを制作して次回には親子木工体験でその学生達からミニ椅子づくりの指導を受け、学生達と親子がふれあう交流を通じて学びあう事業をしました。夕食時には、持ち寄った手料理を食べながら体験談を話し合い、森林や木材を通じた楽しい思い出をつくることができました。森の中の解放感の体験をお勧めしたい、子供達の感想文を読むとやりがいを感じると、理事長の近野浩美さん、理事の荒木柴乃さんが発表しました。

NPO法人みんなのあそび塾によきによきは、若者や子供達に森林資源を活用した体験や交流で、触れ合いを推進して森林教育を学んでもらうプログラムを内容としています。フォレストパークあだたらのフイー

双方の団体からこの助成金制度に感謝しているの発言をいただきまして当法人からも御礼を申し上げます。



活動発表会の会場



みんなのあそび塾によきによき

県北地方における山菜の出荷制限解除に向けた取り組み

■県北農林事務所

林業普及指導員 松本文章

はじめに

身近な旬の食べ物と言って多くの方が楽しみにしているものが「山菜」ではないでしょうか。

しかし、福島県では東京電力福島第一原子力発電所から拡散された放射性物質の影響により、事故から6年目に入った現在でも、多くの市町村、品目で出荷制限が指示されている状況になっています。

今回は県北地方における山菜の出荷制限解除に向けた取り組みについてご紹介します。

福島市の栽培わらびについて

福島市の「わらび」については、基準値を超える放射性セシウム濃度が測定されたことから、平成24年5月17日に出荷制限が指示されました。



出荷を目指してわらびを育てています

その後、平成26年4月に栽培わらびについて国と出荷制限解除のための協議が整い、福島県の「栽培わらびの出荷制限解除方針と申請手順」が定められました。

これを受け福島市職員と林業普及指導員により、放射性物質対策等の指導を行うとともに広報誌等による市内の生産者への呼びかけを行うほか、出荷制限解除に向けた生産者リストを作成し、平成27年5月から7月に事前確認検査を各ほ場2回ずつ行いました。

この期間で延べ570検体（約400kg）について、放射性セシウム濃度が基準値の半分以下であることを確認しました。

明けて本年4月から出荷制限解除協議のためのモニタリング検査を行い、全ての検体で放射性セシウム濃度が基準値以下であることが確認されました。このような取り組みにより、6月24日、福島市の生産者43名の栽培わらびの出荷制限が解除されました。

県北地方のたけのこについて

春の旬の味として、「たけのこ」も人気の高い品目です。しかし県北地方では現在、国見町を除く市町村で出荷制限が指示されているため、直売所や市場などからは出荷制限解除を求める声が大きくなっています。

たけのこの出荷制限解除には、まず市町村ごとに3年間にわたり定点で5検体以上のモニタリング検査を実施し、全ての測定値が基準値以下であり、かつ前年度を下回る必要があります。その上で、延べ60検体以上の検査を行う詳細検査により安全性の確認を行います。

県北地方では本年度から「たけのこ」についても出荷制限解除への取り組みをスタートさせモニタリング検査を実施しています。

おわりに

山菜の出荷制限解除のためには、多量の検体を複数回にわたって検査する必要がありますが、まだまだ険しい道のりを歩まなければなりません。

我々林業普及指導員としても、出荷制限解除を目指し、放射性物質対策を含めた普及指導について粘り強く取り組みたいと考えています。



売れないから採らない、採らないから竹林が荒れるという問題も

森林管理署メロ

森林・林業の再生 に向けた取組

福島第一原発事故の影響により避難指示区域となった市町村において、区域の指定解除が進みつつあります。

こうした中、地域産業の柱の一つである林業・木材産業の早期再開のため、森林・林業の再生に向けた取組が行われており、国有林においても取組を進めているところです。今回は関東森林管理局が行っている、避難指示解除後の施業再開に向けた取組についてご紹介します。

まずは、森林施業の検討に必要な基礎的な情報を得る必要があることから、平成二六年度より、国有林内の環境放射線量等のモニタリング調査を行っています。

調査は、避難指示解除準備区域（旧区域を含む）及び旧緊急時避難準備区域内、十市町村の国有林を対象に、一キレ四方のメッシュを基本として測点を設定し、環境放射線量

の測定の外、一部においては立木、土壌の放射性物質濃度を調査しています。

二巡目となる平成二七年度の調査結果から、空間線量は計算によって求められる物理的減衰率と概ね同じ推移をたどっていること、森林内の放射性物質は多くが土壌表層に存在していることなどが確認されました。

今後、新たに居住制限が解除された区域も追加し、引き続きモニタリング調査を行うっていくとともに、調査結果の活用手法についても検討していくことにしています。

こうした調査の結果も踏まえ、平成二七年度より、避難指示解除後の施業再開のための実証事業を開始しました。

この地域の森林においては、放射性物質による影響を十分に考慮した施業の実施が課題となります。実証

関東森林管理局
森林放射性物質
汚染対策センター

事業においては、そのための具体的な手法を現地で試行し、その効果の検証を行うことにしています。

平成二七年度は、田村市及び川内村の国有林において、間伐施業の実施を通じ、放射性物質の拡散防止と作業者の被ばく低減を中心とした対策の検証を行いました。

このうち、放射性物質の拡散防止対策としては、林縁や溪流沿いなど所用の箇所にも木柵等を施工し、溪流水中の放射性物質濃度の調査等によりその効果等を検証しています。

また、作業者の被ばく低減対策としては、作業時間の短縮や、キャビンによる放射線の遮へい効果が期待できる高性能林業機械を最大限活用した作業システムを試行し、作業功



実証事業地の状況（放射性物質の拡散防止のための木柵工）



実証事業地の状況（高性能林業機械の活用）

程を調査するとともに、被ばく低減効果の検証を行いました。

これらの結果、高性能林業機械による作業では人力作業に比べ被ばく量が概ね低くなるなど、一定の有効性が確認されたところです。

平成二八年度においても継続して効果の検証を行っていくとともに、新たに南相馬市、大熊町、富岡町、葛尾村にも事業地を追加し、さらなる取組を進めていくことにしています。

関東森林管理局では、これまでと同様に関係市町村と連携した国有林除染を適切に行っていくとともに、森林・林業の再生に向けた課題にも積極的に取り組んでまいります。

団体のページ

公社だより

第三回定時社員
総会を開催
(2016年6月)



去る六月三日（金）福島市「杉妻会館」において、ふくしま緑の森づくり公社の第三回定時社員総会を開催しました。まず、畠利行理事長より「『緑の森づくり新生プラン』に基づき更なる経営改善に努めること」はもとより、ふくしま森林再生事業や復興用資材の生産・出荷などを通して本県林業の復興を支え、緑豊かな森林を次世代に引き継いでいけるよう、しっかりと取り組んでまいります。」と挨拶がありました。

また、来賓を代表して、日本政策金融公庫仙台支店農林水産事業統括三村嘉宏様からご祝辞をいただき、天栄村の添田勝幸村長を議長に選出して議事に入り、平成二七年度の事業報告及び決算の承認、平成二八年度の賦課金の徴収、役員を選任など合計四議案についての審議が行われ、原案どおり承認されました。平成二七年度においては、林業関係団体等との連携を図りながら、計画目標達成に向けて健全な森づくりと予算の効率的な執行に取り組みしました。

主な事業実績については、次のとおりです。

①「効率的な森林整備と森林再生への取組」

保育間伐を中心とした施業の重点化を図り、森林の再生に向けて市町村等の支援を受けながら、中核となつて効果的に造林地の再生に取り組ましました。

②「木材生産販売対策の推進」

木材市場での委託販売や指名競争入札による土場売りを行うなど、積極的な木材販売に取り組んだ結果、販売額が前年度の二倍以上の約五、四六〇万円となりました。

③「分収造林契約変更の推進」

「分収割合の変更」は進捗率が六六・〇％に留まったものの、「契約期間の延長」の進捗率は八五・五％となりましました。

④「普及・啓発活動の展開」

林業関係団体等との連携を図りながら、公社造林地を活用した現地研修会等を開催し、施業技術等の習得や向上等に取り組ましました。

平成二八年度は、保育事業では間伐を中心に六九〇畝の森林の整備や一二、八〇〇畝の作業路開設・補修など約三億四、六〇〇万円の事業を実施することとしております。

引き続き、森林整備を通じて森林の再生や森林の公益機能の増進に全力で取り組んでまいりますので、御理解と御協力をよろしくお願いいたします。



挨拶する畠理事長

「自然に親しむ」

福島県の巨樹・名木 | 16 |

剣カツラ

樹木医 鈴木俊行

「剣カツラ」は、西白河郡西郷村大字真船字赤面地内の国有林に生育している。生育地は、西郷村と下郷町を結ぶ国道二八九号の剣柱トンネル手前から甲子温泉に通じる旧道へ入り、二キロメートルほど進んだ場所である。案内板や駐車場、トイレが整備されているので、容易に会いに行ける巨樹である。また、生育地周辺は阿武隈川の源流に近い深い森で、トチノキの大木やブナ、チドリノキ、サワシバなどが生い茂る原生林となっている。

本樹の名称は鬼神伝説に由来するもので、その昔、昼なお暗い山中に鬼神が出没して往来の人々を苦しめたため、時の白河城主松平定信（楽翁）公が剣をもってこのカツラの木に封じ込めたと伝えられ、突き刺された剣はカツラの樹体の中に取り込まれたといわれている。樹齢は四〇〇年ともいわれ傍には剣柱神社が祀られ、本樹を神霊の依代として古く

から猟師など山で生きる人々の信仰を集めてきた巨樹である。

本樹の樹種は、カツラ科カツラ属のカツラである。北海道から九州までの冷温帯の山地、特に谷沿いに分布している落葉高木である。葉は可愛いハート型が特徴的で、秋に黄色く紅葉する。落葉はメープルシロップのような甘い良い香りがする。花は四月頃、葉が出る前に開き雌雄異林で、本樹は雌株である。用途は、庭や公園、街路樹として植栽されるほか、材は香りが良く耐久性があるので、建築、家具、器具、楽器、仏像などの彫刻材として使われる。また、碁盤や将棋盤にも使われるが、近年は市場への供給が減り、貴重な木材となりつつある。

形状寸法は、樹高三五・五〇メートル、幹周一〇・三〇メートル、根元周一二・二〇メートルの巨樹で、県緑の文化財に昭和五八年二月十七日登録、また平成十二年四月に林野庁が全国の国有林の

中から「森の巨人たち一〇〇選」を選定したが、本樹はその中の選ばれた一本である。主幹は、地上約一・五メートルから大小十本以上の幹が真直ぐ立てたように天に向かって伸長し圧倒される。

枝張りは、東一三・二〇メートル、西六・八〇メートル、南一四・〇〇メートル、北九・六〇メートルと平均した形であるが、周辺のトチノキなどの巨木との共生から枝張りはあまり大きくなく、また、樹冠は主幹の頂部に広がり、下枝がない樹形となっている。

本樹が生育する深い緑の森は、巨樹の生育するにふさわしい巨樹の森で、その森の中に足を踏み入れたとたん空気が変わるのがわかる。そして、その深い森の中にカツラの巨樹がすくと静かに立っていて、私たちを迎えてくれる。その姿はまさに山の神の化身であり依代で威厳を感じる。また、どこからかカツラの声が聞こえてきそうで恐ろしささえ感じ、巨樹たちが生きる森で大きなパワーをいただける。皆さんもぜひ、神の化身であるカツラの巨樹に会いにいつてはいかがだろうか。



木材市況

素材の価格〈工場着価格〉（4月15日現在）

（単位：㎡当り千円）

区分	形量		材質	樹種	中通り地方		会津地方		浜通り地方		県平均		
	径(cm)	長さ(m)			当月	前月差	当月	前月差	当月	前月差	当月	前月差	
一般用材	小	5~9	4.00	並	スギ	9(8~10)	0	(0~0)	0	10(9~10)	1	9(8~10)	0
		10~14				11(10~12)		(0~0)		12(11~13)		11(10~13)	
	中	14~22	3.00	並	スギ	11(10~13)		10(10~10)		12(11~14)		12(10~14)	
						並	ヒノキ	13(11~14)		(0~0)		16(14~17)	
			6.00	並	スギ			16(14~17)		10(10~10)		16(15~16)	
		並				ヒノキ	29(25~32)		(0~0)		20(16~24)		24(16~32)
			20~28	3.65	並		スギ	10(9~12)	0	10(10~10)	△2	12(11~13)	2
		4.00				並		10(10~10)		12(12~12)		11(11~12)	
	4.00			並	アカマツ		9(8~11)	0	(0~0)	0	10(9~11)	1	10(8~11)
		1.80	並				8(5~10)	2	(0~0)	0	8(7~8)	1	8(5~10)
外材	養定尺	30以上	10.00	並	米ツガ	(0~0)	0	(0~0)	0	29(27~30)	0	29(27~30)	0
						並	米マツ	35(35~35)	0	30(30~30)	△3	29(28~30)	△1
	北洋材定尺	28以下	3.80	並	エゾマツ			(0~0)	0	(0~0)	0	28(27~28)	0
						4.00	並	ベニマツ	(0~0)	0	(0~0)	0	34(28~39)
並	カラマツ	(0~0)	0	(0~0)	0				27(25~28)	0	27(25~28)	0	
		パルプ用材	-	-	並	マツ	6(6~6)	0	(0~0)	0	5(5~5)	0	6(5~6)
並	広葉樹						8(8~8)	0	(0~0)	0	6(6~6)	△1	7(6~8)

注) 1. 前月差の△印は値下りを、*印は前月実績がなかったことを示す。
 2. () 内は各地域の価格幅、() 外は各地域の平均的価格を示す。
 3. 一般用材カラマツは工場着価格ではなく、福島県森林組合連合会の会津共販所・いわき木材流通センターの素材市売価格を示す。
 4. 各地域の価格については、異常値が生じた場合には県平均算出から除く場合がある。
 5. 朱書は、今回調査(日28年4月)より変更・追加した項目のため、前月差は空欄としている。

区分	形量		材質	樹種	会津共販		いわき	
	径(cm)	長さ(m)			当月	前月差	当月	前月差
一般用材	12以下	4.00	並	カラマツ	(~)		7(6~9)	0
	13~14				(~)		8(7~8)	0
	16以上				(~)		10(9~11)	0

三月の原木市場への入荷状況は、前月比二割減（前年比二割増）の二八、六一八立方メートルとなっている。
 販売量については、前月比三割減（前年比八割増）の二九、〇五五立方メートルとなっている。
 四月の価格については保合いとなっている。

しかし、車で入れる道は無情にも距離が短く、大雨の痕跡が残る石礫や岩場で足元の悪い溪流を登りながら、膝が壊れるという不安と、道なき伏条するヒバの低木をかき分け、熊が出せないことを祈りつつ、きつと目指すヒバに巡り会えるという根拠のない希望だけを頼りにひたすら歩いた気がする。

「この目で確かめたい！」という好奇心と、森林計画現地調査という使命感から「南会津に勤務している今しかチャンスはない。」と自分に言い聞かせ、現地案内を地元の有識者に依頼し、急遽ヒバの探索班を部に特設して、水無川支流の小崩沢（通称）の現地調査を行った。

南会津町の東端、水無川を上流に遡り県道脇から山肌を臨むと、濃い緑色をした樹木が幾つも点在しているのが目に映る。三匹獅子舞で知られる栗生沢集落の大山祇神社境内には、凜とした空気の中に一際目を引く御神木のヒバの巨木が根を張っている。黒滝山（標高一、四〇五・七メートル）、男鹿岳（標高一、七七七・一メートル）、滝沢山（標高一、二一一・五メートル）の山懐には、未だ斧が入ったことのないヒバの原生林が残っているという話しを住民から耳にした。



小崩沢の檜葉ひば

南会津農林事務所 五十嵐 正徳

「目的の地まで行くのは無理だ。足と気力が限界で日帰り調査では日没まで帰れない。」と挫折するあきらめの気持ちに芽生え始めた山腹の途中、幸いにも密集したヒバがその姿を現した。神社のヒバを見て高ぶる期待があつた分、太さには少し物足らなさを感じたが、伏条による稚樹がこれまでになることを想像すると、気の遠くなる時間の経過と、素性よく良く育ったことに感慨深いものを味わった。空中写真を見ると、到達できなかつた山頂の稜線に濃い緑色の樹木が見られる。人の立ち入りを拒むような静寂な森林に、ヒバの巨木が佇む姿に期待が膨らむ。



栗生沢大山祇神社境内のヒバ



小崩沢のヒバ

表紙の写真



「新緑の仲間たち」

第30回ふくしま緑の写真コンクールで銀賞を受賞した門林泰志郎さん（いわき市）の作品。
撮影場所：いわき市

はなしのひろば

夕焼け 小焼け

梅雨の中休みに見る「夕焼け」にホッとしたことはないだろうか。「夕焼け小焼け」で日が暮れて山のお寺の鐘がなる「懐かしい童謡だ。この童謡の作詞者は、中村雨紅。中村雨紅は、宮尾神社（八王子）の宮司の子として生まれ、山々にこだまする寺の鐘の音を聞いて育ったという。お寺の鐘の音、カラスの鳴き声、つないだ手と手のぬくもり、家では母親が夕餉の支度をしているような、そんな懐かしい思いに駆られる。特に雨紅が描いた山のお寺、お寺の鐘、カラス、夕焼け小焼けの赤い雲などの情景には「里」の原風景があるような気がする。童謡を聞いて懐かしさを覚えたり、せつなくなったり、寂しくなったり、楽しくなったりするのは、人それぞれの内にある「自分だけの原風景」と重なるからかも知れない。

先月、郡山市で大島花子さん（故歌手坂本九さんの娘さん）のライブ&トーク「うつくしい命」を聞く機会があった。そこで聞いた手話混じりの「夕焼け小焼け」は、里の風景に響きわたり、手で表現される言葉は美しく、聞く者の心の琴線をふるわせた。突然の飛行機事故でお父さんを亡くされ、日常が如何にありがたいか、今ある命がいかにかうつくしいか、を静かに歌いあげていた。気がつけば今年ももう七月。忙しい日常で「夕焼け」を見たら「夕焼け小焼け」を口ずさんでみたらいかだらうか。懐かしさで心がふと緩み、お寺の鐘の音が聞こえてくるかも知れない。

ところで日没の時間だが、七月二〇日頃を境に毎日二分ほど早くなっている。七月一日には、午後七時三分頃の日没が、七月三十一日には、もう午後六時四十八分頃になっていくそう。

編集

福島県内四森林管理署
福島県森林・緑化協会

福島県森林組合連合会
福島県木材協同組合連合会

福島県農林種苗農業協同組合
ふくしま緑の森づくり公社

森林総合研究所福島水源林整備事務所
福島県森林・緑化協会

福島県中町五番一八号県林業会館内
相馬

陽光社印刷株式会社
（定価 一〇八円）

発行人 行

発行

相馬 雅俊

（定価 一〇八円）

お知らせコーナー

第69回全国植樹祭大会ポスター原画 作品募集

県では、平成30年春に南相馬市で開催する第69回全国植樹祭の大会ポスター原画を募集しています。

1. 応募資格 県内の小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の児童・生徒
2. 応募方法 募集要領は、「第69回全国植樹祭ふくしま2018」のホームページからダウンロードすることができます（学校を通じての応募です。）。
3. お問い合わせ先 各市町村教育委員会
福島県全国植樹祭推進室 電話024-521-8628
福島県義務教育課 電話024-521-7776



（平成28年度長野県大会ポスター）

2016一語一絵 みどりの文 作品募集

～庭にはひとつの物語といちまいの絵があります～

「美しい緑と安らぎの空間づくり」を目指している（一社）福島県造園建設業協会では、世代を越えて共有できる庭と緑への想いをテーマとした作品を募集しています。

1. 部門
 - (1) 手紙・エッセイ部門
600字以内（句読点を含む。）、様式は自由（原稿用紙・便箋等）
（例）私と庭・緑の感触・緑豊かなふるさとへの想い 等
 - (2) 絵手紙部門
私製はがき（107mm×154mm以内。通常はがきサイズ）、官製はがきでご応募ください。
- (注) はがきの大きさは厳守してください。
- (3) フォト部門
写真（6ツ切りサイズ）、写メール（データをメールで送信）
（例）みどりの風景・庭・街のみどり 等
2. 応募締切
平成28年8月28日（当日消印有効）
3. お問い合わせ先
一般社団法人福島県造園建設業協会（TEL 024-593-0039）

備えのパートナー 森林保険

こんな災害からあなたの山を守ります。



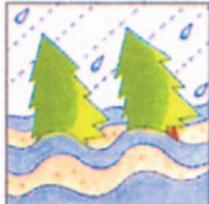
1 火災

山火事で受けた損害



2 風害

暴風による根返り、幹折れなどの損害



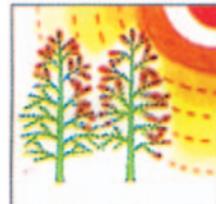
3 水害

豪雨、洪水による埋没、水没、流失などの損害



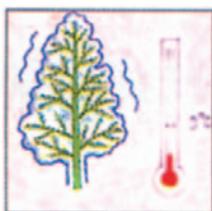
4 雪害

大量の積雪による幹折れ、根返りなどの損害



5 干害

乾燥による枯死などの損害



6 凍害

凍結、寒風などによる枯死などの損害



7 潮害

潮風、潮水浸水などによる枯死などの損害



8 噴火災

火山噴火による焼損、幹折れ、埋没、根返りなどの損害

《保険の対象となる森林》

竹林や人手の全く入らない天然林を除き、面積が0.01ha以上であれば、樹種、林齢に加入制限はありません。

《ご相談・お申し込みは》

◆福島県森林組合連合会
TEL024-523-0255(代)

または最寄りの森林組合

イワフジのプロセッサ

GP-45V グラップルプロセッサ

IWAFUJI
INDUSTRIAL CO., LTD.

シンプルと耐久性を追求したプロセッサ

- 高耐久性を追求したフレームとトンク
- 全旋回を無くしたシンプル設計
- カッタ保持はシンプルなスプリング式
- 強力な油圧モータおよび保持力によるパワフルな送材力
- 大きなトンクによる効率的なグラップル作業
- 皮剥けを防止するガイドローラ付トンク
- 高速コンピュータGP-7による精度の高い安定した測尺
- 手元のノブスイッチで全ての操作が可能

Simple Processor
MODEL : GP- 45V

イワフジ工業株式会社

www.iwafuji.co.jp

北関東支店 〒963-8052 福島県郡山市八山田 5-314
TEL 024-973-5166 FAX 024-973-5168

林業機械の総合メーカー

- ・ハーベスタシリーズ
- ・フォワーダシリーズ
- ・グラップルシリーズ
- ・プロセッサシリーズ
- ・スイングヤーダシリーズ
- ・ラジキャリアシリーズ
- ・木寄せウインチシリーズ

イワフジが開催する「高性能林業機械のメンテナンス研修」受講生募集中!

自然との調和

私達は、地球的視野に立ち、つねに進取の精神をもって、時代に挑戦します。

皆様のご要望にお応えする、環境との調和を図る製品やタイムリーな情報を提供し、全国から厚い信頼をいただいております。

野生獣類から大切な植栽木を守る

ヤシマレント

ヤマビル対策に

マリックスター(駆除剤)

蜂さされ防止

ハチノックL(楽退治)
ハチノックS(携帯用)

タケを駆除する

クロレートS

大切な日本の松を守る住化グリーンの林業薬剤

ヤシマスミバイン乳剤
ヤシマスミバインMC
グリーンガードNEO
パークサイドF
ヤシマNCS
モリエートマイクロカプセル
マツグリーン液剤2
マッケンジー

くん蒸用生分解性シート

与作シート(茶・白)
(折りたたみ式
専用キャリーバック使用)

竹・ササの防除に

クロレートS粒剤



住化グリーン株式会社

本社 〒103-0016 東京都中央区日本橋小網町1番8号 TEL.03-6837-9422 FAX.03-6837-9423

効率良く快適に! 手持ち作業から大型作業まで充実のラインナップ。

機器はゼノアから

チッパシュレッダ



最大処理径
200mm

竹もOK!

SR3100

出力 18.4kW (質量1,330kg)

水冷ディーゼル

967634301

¥3,580,000(税抜)

ハンマナイフモア



ZHM1550

排気量 27.5cm³ (質量1600kg)

967081901

¥5,860,000(税抜)



ZHM800

排気量 20cm³ (質量230kg)

967088901

¥748,000(税抜)

ハスクバーナー・ゼノア(株)福島県代理店

(有)うねめ林業機械

TEL(024)952-2657・FAX(024)951-7775 〒963-0211 郡山市片平町字新蟻塚108の1